

広島市西風館火葬炉設備増設事業 優先交渉権者特定基準

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
<p>1 業務実施能力</p> <p>(1) 経営状況 (2) 技術者数 (3) 支店等の所在地 (4) 県内実績</p>	10 点	<p>1 企業の信頼性</p> <p>(1) 本工事と同等規模以上の施工実績がある (2) ISO9001（品質）取得 (3) ISO14001（環境）取得 (4) ISO45001（労働安全衛生）取得 (5) ISO27001（情報セキュリティ）取得</p> <p>2 工事施工の確実性</p> <p>(1) 国家資格を有した技術者がいる (2) 自社工場を有している (3) 自社で技術開発を行っている</p> <p>3 運用時の緊急体制の確立</p> <p>(1) 緊急時対応可能な支店等が近くにある。</p>	<p>・ 評価項目が定量的な性質であり、チェックすべき10項目を設け、1項目該当するたびに1点とする。</p> <p>【チェックすべき項目】</p> <p><input type="checkbox"/> 平成19年4月1日以降に元請として完成・引渡し完了した、新設又は増設工事で10炉以上の火葬炉及び火葬炉付帯設備の施工を有する工事がある。</p> <p><input type="checkbox"/> ISO9001（品質）を取得している。</p> <p><input type="checkbox"/> ISO14001（環境）を取得している。</p> <p><input type="checkbox"/> ISO45001（労働安全衛生）を取得している。</p> <p><input type="checkbox"/> ISO27001（情報セキュリティ）を取得している。</p> <p><input type="checkbox"/> 技術士（機械部門）がいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 自社工場を所有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自社で技術開発を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 広島県内に支店等があり、技術者が常駐している。</p> <p><input type="checkbox"/> 広島県内にPFI及び指定管理または委託業務を契約している火葬場がある。 (グループ会社含む)</p>

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
2 燃焼計算 及びシステムの考え方	30 点	<p>1 燃焼計算の的確さ</p> <p>(1) 燃焼計算の前提条件が正しい</p> <p>(2) 設備フロー、設備仕様書と燃焼計算との条件等の整合性がとれている</p> <p>(3) 侵入空気が流入位置を含め燃焼計算に考慮されている</p> <p>(4) 空気の供給量の計算が適正である</p> <p>(5) 蓄熱に対する考えが適正である</p> <p>(6) 各工程ごとの計算結果が示されている</p> <p>(7) 計算の根拠となるデータが添付されている</p> <p>2 火葬炉設計の信頼性</p> <p>(1) 燃焼シミュレーションの実施 ・適正な理論に基づいた火葬炉開発が行われている</p> <p>(2) 燃焼シミュレーションなどから適正な容積（滞留時間）の計算となっているか確認されている</p> <p>(3) 各種センサーの位置が制御方法と適合している</p>	<p>・ 評価項目が計算結果や整合性の確認であることから、チェックすべき10項目を設け、1項目該当するたびに3点とする。</p> <p>【チェックすべき項目】</p> <p><input type="checkbox"/> 燃焼物の重量、組成、再燃焼炉容積、侵入空気の考え方などが正しい。 排ガス測定データのガス量と乖離が少ない。（温度、酸素濃度をもとに比較）</p> <p><input type="checkbox"/> 設備フローの機器と設備仕様書の機器の構成が合致しており、燃焼計算に考慮されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 燃焼計算に侵入空気が考慮されており、流入位置も、理論に基づき問題無い。</p> <p><input type="checkbox"/> 燃焼工程毎に空気供給設備の稼働状況を含め適正な供給量で計算されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 予熱段階を含め各工程ごとに蓄熱を考慮した燃焼計算となっている。 蓄熱を考慮した上で予熱で800℃に上昇</p> <p><input type="checkbox"/> 0区分から4区分までの各工程ごとの燃焼計算結果が示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 侵入空気の測定データなど、燃焼計算の根拠となるデータが示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 燃焼シミュレーションをもとに再燃焼炉の設計が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 燃焼シミュレーションから排ガスの流れに沿った形状と容積となっており、必要な滞留時間が確保されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 各種センサーが制御方法に適した位置となっている。</p>

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
<p style="text-align: center;">3 火葬炉設備</p> <p>1 火葬炉本体設備 (1) 主燃烧炉</p> <p>(2) 炉内台車</p>	130 点	<p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 型式：台車式</p> <p>(2) 数量：10炉（標準炉8炉、大型炉2炉）</p> <p>(3) 炉内温度：800～950℃（火葬開始直後は除く）</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 安定した燃焼を行うことができるよう、燃焼室の容積を十分確保している。</p> <p>(2) 燃焼中の温度は、定められた温度を維持できる対策を講じている。</p> <p>(3) 柩の収納、焼骨の取出しが容易等、運営管理面を考慮した構造になっている。</p> <p>(4) 構造材は、使用場所に適した特性及び十分な強度と耐久性を有している。</p> <p>(5) 耐火物の補修が容易な構造になっている。</p> <p>(6) 炉内清掃及び点検が容易な設備となっている。</p> <p>(7) 断熱扉及び台車等の接続部からの外気の漏入が少なく、燃焼用空気を適正に制御できる構造になっている。</p> <p>(8) 火葬中にデレッキ操作の必要がなく、職員の安全性を踏まえ、感染症の遺体の火葬にも配慮した構造になっている。</p> <p>(9) ケーシング表面温度は50℃以下になるようになっている。</p> <p>※火葬炉は平常時4回運転／炉・日、1炉の運転周期を2時間を条件とする。</p> <p>(10) 災害時には2週間程度6回運転／炉・日の運転が可能なものとなっている。</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 数量：10台（標準炉用8台、大型炉用2台）＋その他必要に応じて予備を用意するものとする。</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 十分な耐久性を有し、汚汁の浸透による臭気発散が無い構造になっている。</p> <p>※火葬炉は平常時4回運転／炉・日、1炉の運転周期を2時間を条件とする。</p> <p>(2) 炉内台車上からの収骨を予定するため、なるべく蓄熱が少ない構造になっている。</p> <p>(3) 部分修理等の修繕が容易な構造になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配点130 点のうち、要求水準書を満たしているとき、満点（130点）とする。 ・ 審査委員会のヒアリングでも要求水準書が求める性能を満たしていないと判断されるときは失格とし、又は加点を行わない。

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
<p style="text-align: center;">(5) 断熱扉及び昇降装置</p> <p style="text-align: center;">3 火葬炉設備</p> <p style="text-align: center;">2 燃焼設備</p> <p style="text-align: center;">(1) 主燃焼炉バーナー</p>		<p>(9) 残存酸素濃度は再燃焼炉出口において6%以上（瞬間最低3%以上）とし、必要な空気量を制御できる構造となっている。</p> <p>(10) ケーシング表面温度は50℃以下になるようになっている。 ※火葬炉は平常時4回運転／炉・日、1炉の運転周期を2時間を条件とする。</p> <p>(11) 災害時には2週間程度6回運転／炉・日の運転が可能になっている。</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 型式：電動上下自動開閉式</p> <p>(2) 数量：10炉（標準炉8炉、大型炉2炉）</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 堅固な構造で、上下方向に開閉する方式になっている。</p> <p>(2) 開閉（昇降）装置が故障の際には、手で開閉可能な構造になっている。</p> <p>(3) 扉ロック装置、扉落下防止装置を備えている。</p> <p>(4) 主燃焼炉バーナー起動回路とインターロックが組まれている。</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 数量：10炉（標準炉8炉、大型炉2炉）</p> <p>(2) 燃料：都市ガス（13A）</p> <p>(3) 着火方式：電気式自動着火方式</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 火葬に適した性能を有し、安全確実な着火と安定した燃焼ができ、想定する火葬時間内に火葬が終える能力を有していることが確認できる。</p> <p>(2) 火葬中に、必要な部位に火炎を放射できる構造になっている。</p> <p>(3) 低騒音で安全性が高いことが確認できる。</p> <p>(4) 非常時対応として主燃焼炉バーナーのみ軽油を代替燃料となっている。その際、再燃焼炉バーナーは使用しないようになっている。</p> <p>3 予備バーナーユニット（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 数量：5体の火葬遺体を主燃焼炉バーナーからの交換から2時間程度で終えるのに必要な台数</p> <p>(2) 燃料：軽油</p>	

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
3 火葬炉設備	(2) 再燃焼炉バーナー	<p>(3) 性能：上記条件で火葬を終えるのに必要な火葬能力のバーナーとする</p> <p>(4) 交換：主燃焼炉バーナーからの交換は、作業員が安全に10分程度で交換できる構造とする</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 数量：10炉（標準炉8炉、大型炉2炉）</p> <p>(2) 燃料：都市ガス（13A）</p> <p>(3) 着火方式：電気式自動着火方式</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 主燃焼炉排ガスとの接触・混合に適した火炎形状であることが確認できる。</p> <p>(2) 安全確実な着火と安定した燃焼が可能で、予熱で800℃以上に昇温できる能力を有していることが確認できる。</p> <p>(3) 低騒音で安全性が高いことが確認できる。</p>	
	(3) 燃料供給設備	<p>特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>燃料の供給に係る工事については、二次側（ガバナー以降）とし、配管は耐震対策を行っていることを確認できる。</p>	
	(4) 燃焼用空気送風機	<p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 数量：各社提案 （要求水準書での指定なし）</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 能力は、実運転に支障がないよう余裕があり、安定した制御であることが確認できる。</p> <p>(2) 低騒音、低振動のものであることが確認できる。</p> <p>(3) 作業環境保全のため、防音措置を行っていることが確認できる。</p>	
	3 排ガス処理設備 (1) 排ガス冷却装置 (ア) 排ガス冷却器	<p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 型式：効率的な排ガス冷却を行い排ガス量が極力少なくなる構造として、建物をコンパクトに配置できるとともに、建設費及び維持管理費の低減並びに保守の容易性に配慮した方式とすること。</p> <p>(2) 数量：各社提案 （要求水準書での指定なし）</p>	

	評価項目	配点	評価の視点	評価方法
3 火葬炉設備	4 通風設備 (1) 誘引排風機		<p>が確認できる。</p> <p>(5) ろ布洗浄用空気は除湿空気になっている。</p> <p>(6) 捕集したダストは、自動で集じん装置外に排出され、その後、灰排出装置で飛灰貯留容器（残骨灰と分別貯留）へ移送されている。</p> <p>(7) バイパスダンパ及びダクトで構成する排ガスバイパスを設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排ガスバイパスは、集じん装置及び排風機保護の2経路を設けている。 ・エアシリンダによる駆動方式を採用したバイパスダンパを必要箇所に設置し、排ガス温度や停電等により自動でバイパス経路へ極めて短時間に切り替わるシステムになっている。 ・排ガス経路の切替に際しては、集じん装置等の各設備に影響が出ないように制御できることが確認できること。 <p>(8) 炉布洗浄用コンプレッサーは低騒音型を使用していること。</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 数量：5基（標準炉用3基、標準炉・大型炉用2基）</p> <p>(2) 風量制御方式：回転数制御（インバータ方式）</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 実運転に支障がないよう風量、風圧に余裕があることを確認できる。</p> <p>(2) 排ガス接触部の材質は耐熱性、耐食性を有していることが確認できる。</p> <p>(3) 軸受の冷却は空冷式となっている。</p> <p>(4) 低騒音、低振動であることが確認できる。</p> <p>(5) 遠隔自動、遠隔手動、現場手動での運転操作が可能になっている。</p> <p>(6) 軸受温度計を設置し、遠隔監視を可能とすること。</p> <p>(7) インバータ故障時に、手動または自動で運転可能な直結回路を設けている。</p> <p>(8) 作業環境保全のため、防音措置を行っていること。</p>	
	(2) 煙道及びダクト		<p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 数量：一式 （要求水準書での指定なし）</p>	

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">火葬炉設備</p>	<p>(3) 排気筒</p>	<p>(2) 保温：ロックウール 屋外はSUS304とし、屋内は意匠に配慮した材料を使用している。</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 空気取入口には金網を設けている。 (2) 点検清掃が容易な構造とし、適所に点検口等を設けている。 (3) 角形の大きなものについては、補強リブを入れ、振動の防止に努めていることが確認できる。 (4) 通過ガス量に見合った寸法で、ダスト堆積の恐れがない構造となっている。 (5) 熱による伸縮について配慮した構造となっていることが確認できる。 (6) 煙道のケース表面温度は50℃以下になるようになっている。</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 型式：外部から見えにくいような短煙突方式となっている (雨水対応について配慮している)</p> <p>(2) 数量：5基（標準炉用3基、標準炉・大型炉用2基）</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 騒音防止、排ガスの大気拡散、雨水・降雪等の浸入防止を配慮した適切な構造になっていることが確認できる。 (2) 耐震性、耐食性、耐候性、耐熱性を有していることが確認できる。 (3) 排ガス測定が行える安全な位置に測定口(100A×2カ所)を設けている。 (4) 適当な位置に測定用ステージを設けている。 (5) 外面は結露防止対策を施していること。 (6) 外筒表面温度は50℃以下になるようになっていること。 (7) 口径は、笛吹現象やダウンドラフト等の現象が発生しない排ガス速度を確保できる口径になっていることが確認できること。 (8) 排気筒出口は吐出スピードを落とさず、大気に拡散しやすい形状とし、排気筒内の雨水浸入に対して水抜き等を考慮していることが確認できること。</p>	
	<p>5 火葬炉付帯設備 (1) 炉前化粧扉</p>	<p>開閉操作は炉前室操作盤で行うが、火葬炉設備に関する操作スイッチを炉前室に設ける場合は、操作盤に炉前化粧扉の開閉</p>	

	評価項目	配点	評価の視点	評価方法
3 火葬炉設備	(2) 前室（冷却室）		<p>スイッチを組込んでいる。なお、手動でも開閉ができるようになっている。</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 型式：ボックス式</p> <p>(2) 数量：10基（標準炉用8基、大型炉用2基）</p> <p>(3) 冷却方法：強制空気冷却方式</p> <p>(4) 冷却時間：炉内冷却を含め15分以内</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 遮音、断熱を考慮した構造が確認できる。</p> <p>(2) 会葬者の目に触れる部分は、尊厳性、重量感を有する構造、材質としている。</p> <p>(3) 清掃が容易にできる構造になっている。</p> <p>(4) 炉前化粧扉の開放時でも前室内を負圧に保てることを確認できる。</p> <p>(5) 化粧扉を閉めた状態で、炉内台車を収納できる形状・大きさになっている。</p> <p>(6) 空気取入口は、風切り音が生じない大きさとし、掃除のしやすい構造になっていることが確認できる。</p> <p>(7) 前室冷却用給気筒を設ける場合は、仕様が明示されている。</p>	
	(3) 残骨灰、飛灰吸引装置		<p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 残骨灰用吸引装置</p> <p>①吸引プロア、②集じん機、③吸引口 数量：前室用10カ所</p> <p>(2) 飛灰用吸引装置</p> <p>①吸引プロア、②集じん機、③吸引口</p> <p>2 特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 吸引装置は、残骨灰と飛灰は別々に吸引し、貯留できる装置になっている。</p> <p>(2) 低騒音で、保守点検が容易な構造になっていることが確認できる。</p> <p>(3) 吸引プロアの操作は、吸引口付近で行えることが確認できる。</p> <p>(4) 吸引装置で捕集された灰は、フレコンバックで貯留する方法とするが、フレコンバックへ移し替え時に灰が飛散しない構造であることが確認できる。</p> <p>(5) 吸引装置の捕集粒径は、設置する集じん装置の捕集粒径と同等となっている。</p> <p>(6) 残骨灰、飛灰搬送のための配管は、曲り部の取替えが容易な構造となっている。</p>	

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
<p>6 電気・計装設備</p> <p>7 その他設備 (1) 運営支援システム</p>		<p>1 電気設備に係る特記仕様（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 操作機器には、動作表示灯を設置する。 (2) 電線管は、原則として金属管とする。 (3) 会葬者の目に触れるスイッチ類、電線等は、デザインや配色等を考慮していることが確認できる。 (4) 電動機には、電流計を設けることを原則としている。また、各電動機には原則として現場操作盤を設けている。</p> <p>2 計装設備全体に係る特記仕様（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 火葬炉設備の運転制御は、炉ごとの分散制御方式とし、設備の運転制御及びプロセス監視に必要な計装計器、表示器及び警報装置等を設置している。 (2) 設備計画にあたっては、機器等の使用環境、保守・管理の容易性、操作性及び省力化を考慮していることが確認できる。 (3) 火葬炉は全自動で運転できることが確認できる。 (4) 自動制御機器については、原則として手動操作が可能になっている。また、自動と手動の切替は、現場操作盤優先となっている。 (5) 柩を主燃焼炉内に入れ、炉前化粧扉及び断熱扉を閉じない限り、原則として炉運転を実行しないシステムとすることなど安全運転に配慮したインターロックを設けている。 (6) 保守点検等には、各機器のインターロックが現場操作盤で解除できる。 (7) コンピューター等の電子機器は、停電時に異常が生じないようバッテリー等でバックアップできる。 (8) 検出部、指示計、調節計等の機器類は、汎用品としている。 (9) センサー類の検出端には、保守点検や補修等を考慮したステップ、点検用スペース、通路等を設けている。 (10) 再燃焼炉内温度、ばいじん量、CO濃度等については、火葬中は常時計測し結果を確認できるシステムを設けている。</p> <p>1 案内表示システム（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p>	

3 火葬炉設備

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
<p style="text-align: center;">3 火葬炉設備</p>	<p>(2) 柩運搬車、 台車運搬車</p>	<p>(1) 予約システムのデータを指定管理者が入力し、各部屋に宗家名を表示させるシステムになっている。</p> <p>(2) 設置箇所は以下の通りとなっている 炉前ホール： 5台 待合室： 10台 総合案内盤： 2台</p> <p>(3) 火葬の進行状況の表示など、作業員・利用者に配慮した円滑な運営が出来るようなシステムが提案されている。</p> <p>1 主要項目（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等か確認）</p> <p>(1) 型式：各社 （要求水準書では指定していない）</p> <p>(2) 数量：各社必要台数を提示 （ただし、同時間帯に5件の告別又は収骨が行われることが想定すること）</p> <p>2 柩運搬車特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 柩運搬車は、柩を霊柩車からお別れ室まで運搬し、さらに前室内の火葬用炉内台車上に柩を安置するための運搬車となっている。</p> <p>(2) 電動走行式とするが、切替えにより手動でも走行できる構造となっている。</p> <p>(3) 炉内台車上へ柩の安置が容易に行える装置（電動式）を備えている。</p> <p>(4) 美観に優れた材質及びデザインになっていること。</p> <p>(5) バッテリーは、1日の通常作業が可能な容量になっていること。</p> <p>(6) 高齢者や障害者などに配慮した構造になっていること。</p> <p>3 台車運搬車特記事項（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認）</p> <p>(1) 台車運搬車は、火葬炉内台車を運搬するための運搬車となっている。</p> <p>(2) 電動走行式とするが、切替えにより手動でも走行できる構造となっている。</p> <p>(3) 炉内台車の出し入れを自動で行える装置を備えている。</p> <p>(4) バッテリーは、1日の通常作業が可能な容量になっている。</p> <p>(5) 遺族等が火傷する恐れがない構造であることが確認できること。</p> <p>4 その他（技術提案書の仕様が要求水準書の仕様と同等以上か確認） 兼用型とした場合は、両運搬車の特記事項に対応できるものとする。</p>	

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
4 環境保全対策		<p>火葬炉設備の環境対策に限定して評価する。</p> <p>(1) 火葬炉設備の公害防止対策の考え方が適切で、適正な機器が選定されている</p> <p>(2) 公害防止目標値（排出基準値）が順守できる設備内容が提案されている</p> <p>(3) 異常燃焼（急激な燃焼）に対する制御方法が適正である</p> <p>(4) 提案に対して排ガス測定が適正に行われた測定データが添付されている</p>	
5 火葬炉設備設置スペース		<p>(1) 火葬炉室（2基分の設置スペース） 幅6m×奥行10mの範囲に収まっている</p> <p>(2) 火葬炉設備機械室（2基1系列分の設置スペース） 幅6m×奥行15mの範囲で収まっている。</p> <p>(3) 排気筒高さ 14m以下（先端は屋外上部開放）の範囲で収まっている。</p> <p>(4) 火葬炉本体設備の配置は1階とし、バグフィルター等の排ガス処理設備は2階に設置している。</p> <p>(5) 火葬炉設備によって、建物高さは14mを超えることが無い設備になっている。</p>	

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
6 維持管理費	10点	<p>(1) 電気・燃料費は燃焼計算との整合性がとれている</p> <p>(2) 提示した稼働率で計算がなされている機器設定の考え方と稼働率の考えが適正</p> <p>(3) 修繕費が適正 (火葬炉設備設置工事費が極端に安価である分、点検費・修繕費を要しているといった不均衡がない。)</p> <p>(4) 機器の補修サイクルと修繕費の算出の考えが適正である。</p> <p>(5) 定期点検費（小修繕を含む）の算出の考えが適正である。</p>	<p>・ 評価項目が計算結果や整合性の確認であることから、チェックすべき5項目を設け、全て満たした場合10点とする。</p> <p>【チェックすべき項目】</p> <p><input type="checkbox"/> 燃焼計算との整合性がとれている。</p> <p><input type="checkbox"/> 提示した稼働率で計算がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 修繕費は必要な項目を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 補修サイクルと修繕費の算出の考えが適正である。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期点検費の考え方が適正である。</p>

評価項目	配点	評価の視点	評価方法
7 課題への提案内容	(1) 燃焼制御の考え方と火葬炉設備の特徴	20点 燃焼制御の基本的な考え方と特許の所有等の優れた特徴を踏まえ、火葬炉設備の性能が要求水準書の性能以上になることについての提案を評価する。	・評価の視点に基づき特に優れた提案を20点、優れた提案を15点、標準的なものを10点、劣るものを5点、評価に値しないものを0点とする。
	(2) 現地での施工方法に関する提案	20点 工事による騒音や工事作業スペース等、工事により隣接する既存施設の運営に与える影響を抑えつつ、品質を損なわない効率的な施工方法や管理方法についての提案を評価する。	・評価の視点に基づき特に優れた提案を20点、優れた提案を15点、標準的なものを10点、劣るものを5点、評価に値しないものを0点とする。
	(3) 既存施設との連携や運営の効率化に関する提案	20点 既存施設との連携を含め、会葬者が利用しやすい運営提案や職員の作業性の効率化を図るための提案を評価する。	・評価の視点に基づき特に優れた提案を20点、優れた提案を15点、標準的なものを10点、劣るものを5点、評価に値しないものを0点とする。
	(4) メンテナンスの考え方と体制	20点 施設管理者が容易に日常点検等のメンテナンス及び補修を行えるようにすることや、トラブル時の技術者の派遣体制や交換部品の手配等の緊急時対応についての提案を評価する。	・評価の視点に基づき特に優れた提案を20点、優れた提案を15点、標準的なものを10点、劣るものを5点、評価に値しないものを0点とする。
	(5) 維持補修及び改修時の環境配慮	20点 有害物質を使用した材料により、将来、維持補修や改修時の飛散等により余分な処分費用が掛からないようにすることや、地球温暖化対策に配慮した材料を使用する等の環境配慮についての提案を評価する。	・評価の視点に基づき特に優れた提案を20点、優れた提案を15点、標準的なものを10点、劣るものを5点、評価に値しないものを0点とする。
	(6) 本工事に関連する自由提案	20点 課題1～5の提案内容にない、他社より優れていると思われる技術の提案を評価する。	・評価の視点に基づき特に優れた提案を20点、優れた提案を15点、標準的なものを10点、劣るものを5点、評価に値しないものを0点とする。
合計	300点		